

地域の困りごと、課題調査 調査結果速報版

～柿生地区社会福祉協議会ニーズ調査～

<アンケート件数： 998 件>

7月から8月にかけて行いました、柿生地区社会福祉協議会の「地域の困りごと、課題調査」にご協力頂きまして、本当に有難うございました。

アンケートの集計が纏まりましたので、その結果を抜粋して速報版を作成致しました。今回ご協力頂きました3町内会・自治会の皆様に取り合えず速報版をご報告させていただきます。

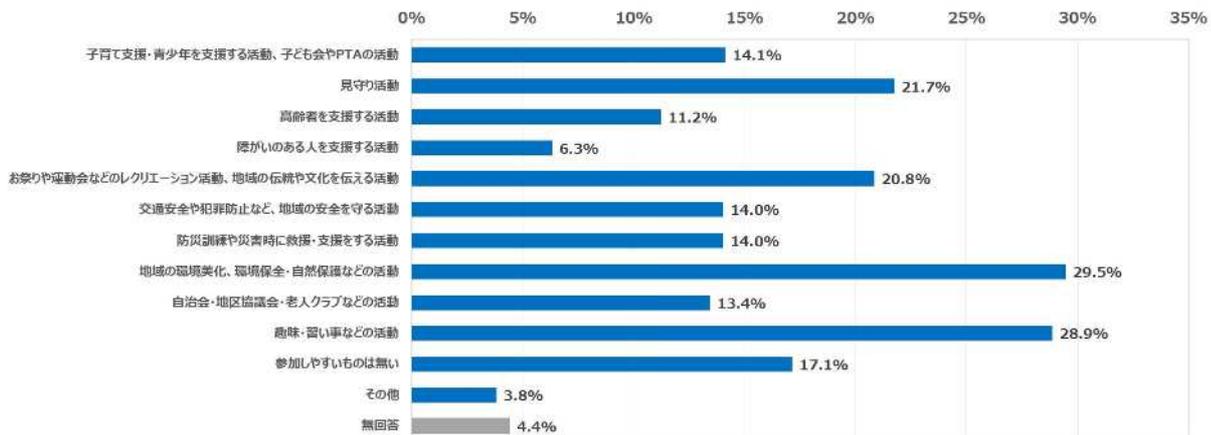
Q1 あなたがお住まいの地域の町内会は次のうちどちらですか



(Q1のコメント)

回答の属性としては、男女比は半々、40代～50代の方からの回答が多かった。また、家族構成は、親と子どもの2世代が6割、次にご夫婦のみが多く、同居人数は、2人から4人が大体25%づつでした。

Q7 近年、様々な地域活動・ボランティア活動が行われていますが、あなたが参加しやすい活動は何ですか？



(Q7のコメント)

環境美化・環境保全、趣味・習い事を選択された方が多く、その活動の場があるのは麻生区の特性である。

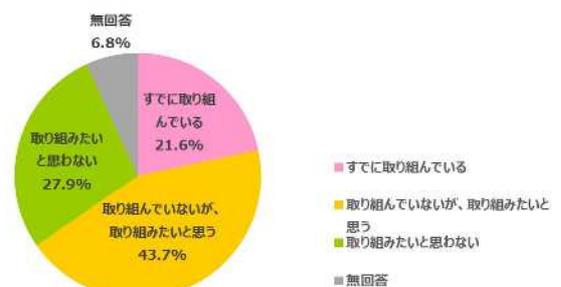
Q8 地域活動・ボランティア活動の情報をどのような方法で探しますか



(Q8のコメント)

地域活動等の情報は、区、社会福祉協議会の広報が中心で、今後、地域活動団体の広報紙の置き場所が課題。

Q9 あなたは、ボランティアとして、地域活動や諸団体等の活動に取り組みたいと思いますか



(Q9のコメント)

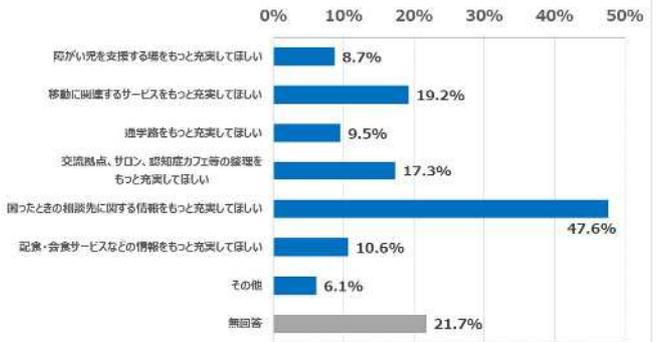
4割強の「取り組んでいないが、取り組みたいと思う」人のつながりが必要。

Q11 柿生地区社会福祉協会をご存知ですか？



(Q11のコメント)
「柿生地区社会福祉協会」を知って頂くのが今後の課題です。

Q13 福祉のニーズについて伺います



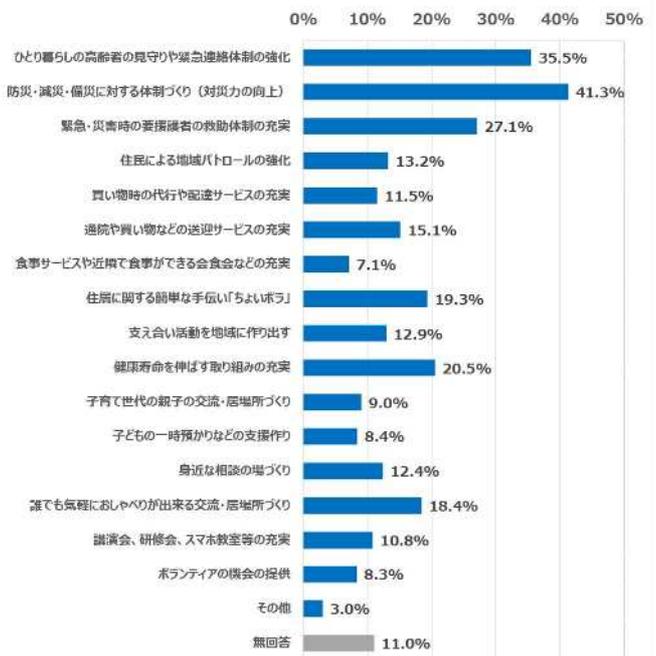
(Q13のコメント)
相談先がわからないという事が認識されていないのが課題。

Q16 今後の暮らしについて不安を感じることはありますか



(Q16のコメント)
健康、防犯、防災の福祉ニーズを選択した方が多かった。

Q19 今後、町内会・自治会、柿生地区社会福祉協会に望む取り組みについて教えてください



(Q19のコメント)
保健福祉組織とより良い密接な連携が必要。

全体のまとめ

今回の調査では一戸建ての世帯が多かったが、今後マンション群の実態と意向調査が必要と思われる。

《賛同者募集中》

柿生地区社会福祉協会の会員(賛同者)になり、一緒に柿生地区社会福祉協会の活動に参加してみませんか？

《賛助会員募集》

賛助会員は、麻生区社会福祉協議会及び柿生地区社会福祉協会の活動に賛同していただき、その活動を資金面から支えていただく方々です。賛助会費は柿生地区社会福祉協会の活動を支える貴重な財源ですので賛助会員になっていただけますよう宜しくお願いいたします。詳しくは、麻生区社会福祉協議会HPをご覧ください。

本調査及び速報版に関するご質問・お問い合わせは、下記までにご連絡いただきますようお願い申し上げます。

柿生地区社会福祉協議会 プロジェクト会議事務局
〒215-0004
川崎市麻生区万福寺1丁目2番2号 新百合21ビル1階
TEL: 044-952-5500
FAX: 044-952-1424



柿生地区社協活性化プロジェクト会議報告書

(抜粋)

<2023年3月～2025年4月>



1. これまでの経緯 P. 2
2. 取り組み内容 P. 3～4
3. 提案書 P. 5～6

発行：柿生地区社協活性化プロジェクト会議

発行日：2025年5月15日

1. これまでの経緯 ～柿生地区社協活性化プロジェクトの立ち上げ

1. 問題意識の芽生え：研修アンケートから見えてきた課題（2014年度）

2014年に、総会で新人会員より「地区社協とは、市社協とは何か？」との質問が多く出され対応に苦慮したこと、2015年に、会員対象の研修アンケートでは、「担い手の不足」や、「サロン継続のための飽きないプログラム」などの声が挙がる一方、それらを上回る数の「地区社協の役割が見えない、わからない」との声が寄せられたことにより、地区社協の存在意義や役割が理解されておらず、研修内容を見直す契機となりました。

2. 継続的な学びと理解の深化（2014～2022年度 2018～2020 新型コロナにより研修休止）

上記を受けて、毎年の研修会テーマは、「川崎の地区社協の成り立ちと現状と課題について」「区社協と地区社協の違い」「小地域福祉活動の他区事例を学び、麻生区の取り組みを考える」「あさお地域福祉計画（区）の進捗と地区社協への期待」などとし、学びながら、地区社協が担うべき役割の輪郭が少しずつ明確になり、地域に根ざした活動をどう組み立てていくかを具体的に考える土台が築かれていきました。

3. 地域構造の変化と新たな気づき（2020年度～現在）

2020年度、川崎市は各区に「中地域（地域ケア圏域）」を設定しました。地域包括ケアの理念に基づき、住民の健康・福祉・生活を一体的に支えるためのエリアを設定する取り組みです。他の6区では、この中地域が地区社協の活動範囲と一致するように設けられましたが、麻生区では、民生委員・児童委員協議会の活動エリア（区内6か所）に設置されました。この相違は、地区社協の役割や位置づけについて、改めて議論する必要性を浮き彫りにしました。

4. プロジェクト発足へ：新たな一歩（2023年度から現在）

これらの学びと気づきを、より具体的な行動に移すために、2023年度柿生地区社協の事業計画に「地域ケア圏域検討会の開催」を盛り込み、取り組みをスタートさせました。同年11月には「柿生地区社協活性化プロジェクト会議」が正式に発足しました。

2023・2024年度も研修を継続し、その中では「地区社協の具体的な役割が定まっていないことが活動停滞の一因」「町会連合会や民児協など、他団体との連携が十分に機能していない」などの指摘や、「行政が策定する各種計画と、住民主体のコミュニティ活動をどう結びつけていくか」も大きな課題として認識されました。そのためには、地域のニーズを把握する手段として、アンケート調査が有効であるという認識も共有され、より科学的・客観的な地域理解が必要であるとの認識が深まり、2024年度の事業として取り組みました。

柿生地区社協活性化プロジェクトメンバー（50音順 敬称略 2023年11月発足時役職）

石井 秀明	地区社協理事	川田 きくの	〃	松岡 喜代子	〃
			副会長		会計
市川 幸一	〃	久保倉 清	〃	吉垣 君子	〃
	理事		顧問		理事
梅澤 馨	〃	杉本 秀治	〃	依田 明子	〃
	会長		理事		監事
大沼 洋子	〃	田邊 亜佳音	〃	渡辺 孝一	〃
	会計		会計		副会長
アドバイザー	村井祐一	田園調布学園大学学長補佐兼 人間福祉学部学部長			

2.取り組み内容

(1)プロジェクト会議

会議	月日	会議の内
(令和5年)		
研修会	3月14日(火)	「あさお地域福祉計画の進捗と地区社協への期待」(講師:田園調布学園大学 学長 補佐件学部長 村井 祐一教授)
	9月;19日(火)	「これからの柿生地区社協のあり方を考えるプロジェクトチーム」の起ち上げについて(提案)
	10月19日(木)	田園調布学園大学村井教授の部屋で第1回会議に向けての打ち合わせ
第1回	11月25日(土)	プロジェクト会議の趣旨説明、スケジュール等について説明
第2回	12月23日(土)	ニーズ調査全般について検討
(令和6年)		
第3回	1月30日(火)	ニーズ調査を行う町内会、ニーズ調査のアンケート内容の検討
第4回	2月17日(土)	ニーズ調査実施の時期、集計、分析の方法等の検討
研修会	3月19日(火)	「身近な地域(中地域)の課題に対応し、みんなで支え合う地区社協の役割を考える～居場所や支え合いのネットワークづくり～」
第5回	3月26日(火)	ニーズ調査全般の纏め、アンケート内容の確認等
第6回	4月30日(火)	ニーズ調査のアンケート内容の検討、3つの社協の説明ズ等
第7回	5月14日(火)	ニーズ調査のアンケート内容の最終確認、麻生区内の各社会福祉協議会の違い(総会向け)等
第8回	6月25日(火)	ニーズ調査の進捗状況、地域ケア圏域について
第9回	7月23日(火)	集計結果は出ていないが、メンバー間で地域課題、地区社協の課題を意見交換し地区社協運営方法の見直し、調査結果の反映方法を議論
第10回	8月27日(火)	各種団体・構成員にアンケート調査の依頼(依頼先の確認)等
第11回	10月8日(火)	ニーズ調査集計結果の確認、速報版の取り扱いと作成の時期を検討。各種団体アンケートの今後の取り扱いについて議論
第12回	11月19日(火)	ニーズ調査速報版の確認及び配布について、各種団体アンケート概要
第13回	12月14日(土)	ニーズ調査速報版の確認、隠す団体アンケートの概要について説明
(令和7年)		
第14回	1月28日(火)	ニーズ調査、各種団体アンケートのAI分析し、事業計画のキーワード出しを行う
第15回	2月15日(土)	ニーズ調査、各種団体アンケートの説明、2つアンケートから来年度の事業計画のためのキーワード出し
第16回	3月15日(土)	来年度の事業計画として、プロジェクト事務局から提案書を提出、検討
研修会	3月21日(金)	「住民ニーズ調査の結果をふまえた地区社協の取り組み」(講師 柿生地区社協活性化プロジェクトアドバイザー村井祐一教授)
第17回	4月19日(土)	ニーズ調査結果をもとに、令和7年度以降の事業計画、予算案を検討

(2)ニーズ調査の実施

①町内会・自治会への説明(事務局3人で伺う)

- ア 王禅寺町内会 6月8日(土)19時
- イ 山口台自治会 7月7日(日)10時30分
- ウ はるひ野町内会 6月1日(土)17時30分

②ニーズ調査アンケートの配布作業

- ア 王禅寺町内会 1,196部(印刷したアンケート用紙)
- イ 山口台自治会 737部(印刷したアンケート用紙)
- ウ はるひ野町内会 100部(印刷したアンケート用紙)、グーグルフォーム1,900件

③アンケートの回収状況 998件(回収率25.4%)

柿生地区社会福祉協議会 活性化プロジェクト 提案書

2025（令和7）/4/15 役員会へ報告実施

【I】2024（令和6）年度：調査工程の実施

◆アンケート実施の趣旨

地域住民の福祉ニーズの把握と、地区社協の今後の方向性を探るため、①3町内会自治会に「地域の困りごと、課題」ニーズ調査 ・②役員・委員会・関連団体向けアンケート調査を実施した。

◆ 調査結果（主要な課題）

①998回収 / 3932世帯（回収25.4%） ②90回収/ 131部（回収69%）

- (1) 広報活動の不足
- (2) 若い世代を含む人材確保が課題
- (3) 地区社協の役割の理解、実践にばらつきがある
- (4) 地区社協の活動が「5委員会」以外が見えにくい
- (5) 生涯学習のニーズ高く、福祉・趣味、教育・日常生活の項目の講座が望まれる
- (6) 困ったときに相談できる場所の情報が不足している
- (7) 地域における「つながり」「居場所」づくりのニーズが多くある。
- (8) 移動の支援についてのニーズもある。

◆ 今後の方向性

アンケート結果を踏まえ、より詳細な分析を加えつつ、次年度以降の実践的な取り組む。

◆ 提案：次年度以降のスケジュール

- ・2025（R7）年度：実践工程の開始（例：サロンの立ち上げによるマニュアル作成など）
- ・2026（R8）年度：実践継続・評価・報告
- ・プロジェクトは、2025（R7）年度の方向性提案をもって終了とする

【Ⅱ】2025（令和7）年度：実践工程の開始（柿生地区社協として）

◆ 1. 課題への対応

- ・ 広報活動の充実 : 現在の広報内容の検討/HP・SNS活用による発信力強化/地区社協のみえる化
- ・ 人材確保への工夫 : 若年層を意識したデジタル媒体の活用
: 地区社協ボランティア募集への取り組み
- ・ 地区社協の役割や「中地域（地域ケア圏域）」活動の重要性の理解が不足
: 麻生東地区社協、麻生区社協とも連携しながら勉強し強化する

◆ 2. 「5委員会」の活動

- ・ 調査ニーズに基づく課題を各委員会活動に反映する。

◆ 3. すぐに取り組みたいこと（新規事業）

- ・ 多世代型サロンづくり
→ 調査地域1か所からサロンを開設し、地域の拠点として育てる
- ・ 福祉講座・勉強会（ニーズ調査より 例：防災・介護予防など）
- ・ 近隣サロン交流 → サロン活動への継続的サポート
→ 福祉講座や交流会を連携して実施することも可能

◆ 年度内スケジュール

経過報告及び年度末報告を実施し、振り返りを行い2026（R8）年度へつなぐ。

【Ⅲ】令和8年度（R8年度）：実践の継続（検証・改善）

- ・ 2026（R8）年5月の総会にて、これまでの経緯と成果を報告・承認。
 - ・ 実践を継続しながら改善と評価を加える。
 - ・ 会員・役員の無理のない範囲で、事業や体制の見直しも視野に入れる。

【備考】・本提案は、2025（R7）年度を契機とした「柿生地区社協の新たな方向性」を具体化し、地域福祉の推進に資する実践活動へつなげるものである。
柿生地区の特性や既存資源を活かし、具体的な地域包括ケアの基盤づくりと社協同士の連携体制の構築をめざす。

地域の困りごと、課題調査 まとめ

令和6年6月1日より課題調査表を配布し、麻生区内3町内会（王禅寺町内会1,195世帯・山口台町内会737世帯・はるひ野町内会2,000世帯）に協力を依頼し、9月30日に回収しました。回収数は998部、回収率は25,4%ということで調査に値する回収率を達成することが出来ました。ご協力いただいた皆様方につきましては大変感謝しております。

今回の課題調査では、協力していただいた世帯の多くが必要と思われる地域課題について意識していることも確認することができました。

課題調査のまとめとして田園調布学園大学の村井先生に地域の課題を分析していただきましたのでご報告いたします。

課題調査項目別分析（田園調布学園大学 村井先生）

Q3 年齢区分

40～50歳代の回答が多い

Q4 家族構成

2世代構成が非常に多い。（家族介護の問題・8050問題・子育てニーズ）

Q5 住まいについて

圧倒的に一戸建てが多い。一戸建てで構成される地域の強みと弱みを持つことがわかる（地域コミュニティの形成が期待できる強みと高齢化と空き家の弱みがある）

Q6 防災対策

高い防災意識と対策状況（個人レベルの取り組みはかなり充実している）

Q7 ボランティア活動

参加しやすいボランティア活動を切り口につながりづくりを進めていく必要性（見守り活動・環境保全・お祭り運動会など）

Q8 ボランティア活動情報の探し方

現在の情報発信の効果性が見えています。（区や社会福祉協議会の広報やホームページ、図書館・公民館などにあるポスター・チラシ、知人友人からの口コミなど）

Q9 ボランティアに対する意欲

47.3%の人が担い手としての可能性を秘めています。Q8の情報発信と絡めて、この方々の参加機会を醸成することが大切です。すでに参加している方々が継続できるようなサポートを考える必要があります。

Q10 地区の困りごとや不満

不満解消に向けた取り組みは、参加者を呼び込みやすく結果が出れば高い満足度に繋がります。（防犯活動・ゴミ出しルール・交通問題・緊急時の安否確認・参加しやすい地域活動）

Q11 柿生地区社会福祉協議会の認知度

知らない方が多い。（今回のアンケートで認知度が高まったと思います）

名前は知っている。(中身を伝えて、理解と賛同に繋げていく)

Q12 柿生地区社会福祉協議会活動の認知度

認知度の高い活動を切り口に、他の活動に繋げていくことが大切です。(広報紙 かきお社協、共同募金・あさお福祉まつりなどでPR)

Q13 福祉ニーズについて

困ったときの相談先を求めている。(地域で相談できる場所の情報提供は課題)

移動手段のニーズ(これからますます増えていく)交流拠点の充実

Q14 教育・趣味のニーズ

Q7の参加しやすいボランティアと関係が深い設問です。(生涯学習・安全で自由に遊べる居場所作り、習い事、趣味の場所が高いニーズで学びを通じた講座開催も効果的)

Q15 日常生活ニーズ

日常生活ニーズへの対応は活動に対する認知度の向上、身近な存在としての期待感を高めます。

Q16 暮らしの不安について

暮らしの不安は角度を変えた生活ニーズです。(自身・家族の健康については健康作り活動がニーズ。災害時の生活については避難訓練のアップグレードなど)

Q17 孤立感・孤独感

18.1%の方が孤独・孤立感を感じている。

Q18 困ったときの相談相手

少なくとも相談相手がいることは良いのですが、課題もあります。

家族・兄弟・姉妹・親族・友人は課題解決の専門性があるとは限らない。専門機関や地域のキーマンへの相談がかなり弱いと考えられる。

Q19 今後の取り組みへの期待

防災対策・災害対策力、見守りと異変時通報、災害時要援護者、健康づくり・健康寿命、ちょいボラ、交流場所・居場所作り、送迎支援・移動支援、地域パトロール、支え合い活動の立ち上げ支援、身近な相談の場作り、講演・研修・スマホ教室

調査から見た柿生地区社会福祉協議会の課題と取り組み

柿生地区社会福祉協議会の課題として、地域の活動や5委員会の活動等、地域の活動を知らせるための広報手段の確立があげられます。現在の広報紙の見直しや、若い世代の方や多くの地域住民の方にも柿生地区社会福祉協議会に興味を持ってもらえるようSNSの活用なども検討していきたいと思っています。また地域の課題として、防災対策や災害時の支援体制の強化、住民との交流の場(居場所作り)などもあがっています。相談場所が分からない、ボランティアを行いたいはどこに伝えればよいのか、など地域の住民が気軽に集える場所の必要性も見受けられました。

令和7年度より柿生地区社会福祉協議会は課題にあがった1つ1つを出来ることから取り組み、地域住民の声を反映させた活動を続け、地域の発展に貢献していきたいと考えています。ぜひ地域の皆様についてもご理解とご協力をお願いしたいと思います。

ニーズ調査集計結果

Q6 防災についてどのような対策をしていますか

1	避難情報に関するガイドラインをご存知ですか	192	19.20%
2	ハザードマップで防災情報を確認している	504	50.50%
3	防災訓練に参加している	151	15.10%
4	家族で安否確認の方法を決めている	245	24.50%
5	家族で避難場所、避難経路を確認している	280	28.10%
6	家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	384	38.50%
7	食糧、飲料水などを備蓄している	733	73.40%
8	非常持ち出し品を準備している	425	42.60%
9	懐中電灯、携帯ラジオ、医薬品などを準備している	645	64.60%
10	常備薬、眼鏡、補聴器等ないと困るものは用意している	278	27.90%
11	非常用トイレを準備している	499	50.00%
12	その他	16	1.60%
	無回答	29	2.90%

Q7 近年、様々な地域活動・ボランティア活動が行われていますが、あなたが参加しやすい活動は何ですか？

1	子育て支援・青少年を支援する活動、子ども会やPTAの活動	141	14.10%
2	見守り活動	217	21.70%
3	高齢者を支援する活動	112	11.20%
4	障がいのある人を支援する活動	63	6.30%
5	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	208	20.80%
6	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	140	14.00%
7	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	140	14.00%
8	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	294	29.50%
9	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	134	13.40%
10	趣味・習い事などの活動	288	28.90%
11	参加しやすいものは無い	171	17.10%
12	その他	38	3.80%
	無回答	44	4.40%

Q8 地域活動・ボランティア活動の情報をどのような方法で探しますか

1	区や社会福祉協議会の広報・ホームページ	440	44.10%
2	図書館・公民館などにあるポスター・チラシ	189	18.90%
3	学校や職場にあるポスター・チラシ	104	10.40%
4	駅やお店にあるポスター・チラシ	161	16.10%
5	ボランティアなどの募集情報サイト	48	4.80%
6	活動団体や大会・イベントのホームページ	92	9.20%
7	SNSを活用	100	10.00%
8	友人・知人に聞く	181	18.10%
9	分からない、関心がない	158	15.80%
10	その他	49	4.90%
	無回答	42	4.20%

Q9 あなたは、ボランティアとして、地域活動や諸団体等の活動に取り組みたいと思いますか

1	すでに取り組んでいる	216	21.60%
2	取り組んでいないが、取り組みたいと思う	436	43.70%
3	取り組みたいと思わない	278	27.90%
	無回答	68	6.80%

Q10 地区の活動について困っていることや不満を教えてください

1	ゴミ出しのルールを守ってほしい	220	22.00%
2	緊急時の安否確認の体制を整備してほしい	173	17.30%
3	定期的な防災訓練をしてほしい	113	11.30%
4	駐輪・駐車の方法を守ってほしい	72	7.20%
5	子ども会の活動を増やしてほしい	38	3.80%
6	参加しやすい地域活動を増やしてほしい	142	14.20%
7	老人クラブの活動を増やしてほしい	64	6.40%
8	防犯対策への取り組みをしてほしい	319	32.00%
9	交通問題への取り組みをしてほしい	222	22.20%
10	その他	118	11.80%
	無回答	170	17.00%

Q11 柿生地区社会福祉協議会をご存知ですか？

1	良く知っている	43	4.30%
2	少しは知っている	158	15.80%
3	名前は知っている	366	36.70%
4	知らない	412	41.30%
	無回答	19	1.90%

Q12 柿生地区社会福祉協議会の活動でご存知の活動はありますか？

1	5委員会の事業	79	7.90%
2	「かきおの社協」(広報誌)	354	35.50%
3	小地域福祉活動の推進	23	2.30%
4	共同募金事業への協力	233	23.30%
5	賛助会員募集事業への協力	139	13.90%
6	社会を明るくする運動への協力	30	3.00%
7	「老人いこいの家」運営への協力	119	11.90%
8	「あさお福祉まつり」への参加	229	22.90%
9	関係団体の育成・活動費の一部補助	35	3.50%
10	関係団体との連携	24	2.40%
11	研修会の実施	24	2.40%
12	知らない	433	43.40%
	無回答	38	3.80%

Q13 福祉のニーズについて伺います

1	障がい児を支援する場をもっと充実してほしい	87	8.70%
2	移動に関連するサービスをもっと充実してほしい	192	19.20%
3	通学路をもっと充実してほしい	95	9.50%
4	交流拠点、サロン、認知症カフェ等の整理をもっと充実してほしい	173	17.30%
5	困ったときの相談先に関する情報をもっと充実してほしい	475	47.60%
6	配食・会食サービスなどの情報をもっと充実してほしい	106	10.60%
7	その他	61	6.10%
	無回答	217	21.70%

Q14 教育や趣味のニーズについて伺います

1	学習支援の場をもっと充実してほしい	94	9.40%
2	幼稚園、保育園に通っている親の集いや交流の場を増やしてほしい	35	3.50%
3	早朝、学校へ行く前の子どもの一時預かりの場がほしい	54	5.40%
4	誰もが自由に遊べる居場所をもっと充実してほしい	255	25.60%
5	誰もが安全に遊べる居場所をもっと充実してほしい	291	29.20%
6	習い事(趣味)の場所をもっと充実してほしい	198	19.80%
7	生涯学習として学べる場所をもっと充実してほしい	342	34.30%
8	その他	63	6.30%
	無回答	260	26.10%

Q15 日常生活のニーズについて伺います

1	歩道の段差等、歩行時に危ない箇所を直してほしい	292	29.30%
2	街灯をもっと充実してほしい	384	38.50%
3	買物代行、配達等買物が楽にできるようにしてほしい	118	11.80%
4	買物や病院などの外出を手助けしてほしい	70	7.00%
5	パソコン、スマホの使い方を教えてほしい	99	9.90%
6	近くに相談できる場所を設置してほしい	109	10.90%
7	近くに誰でも集まれるカフェがほしい	213	21.30%
8	健康寿命を伸ばしたい	235	23.50%
9	話し相手がほしい	30	3.00%
10	植木の手入れ、草むしりを手伝ってほしい	194	19.40%
11	電球交換等を手伝ってほしい	29	2.90%
12	その他	68	6.80%
	無回答	125	12.50%

Q16 今後の暮らしについて不安を感じることはありますか

1	自分自身の健康のこと	439	44.00%
2	家族の健康のこと	408	40.90%
3	災害時の対応や避難、被災後の生活のこと	321	32.20%
4	家族の介護について	261	26.20%
5	自分自身が介護されること	254	25.50%
6	ひとりで暮らすこと	88	8.80%
7	経済的な不安や財産管理について	136	13.60%
8	空き巣、振り込め詐欺などに合うこと	276	27.70%
9	近くに付き合う人がいないこと、いなくなること	80	8.00%
10	子供の将来のこと	198	19.80%
11	子育てのこと	74	7.40%
12	孤独死で長く発見されないこと	41	4.10%
13	落ち葉掃き、雪かきなどが容易にできないこと	88	8.80%
14	ゴミ出しが困難になってきていること	15	1.50%
15	特に不安を感じることはない	138	13.80%
16	その他	17	1.70%
	無回答	28	2.80%

Q17 あなたが普段の生活の様々な場面で、どのように感じているのかについての質問です

(1) あなたは、自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか？

1	ほとんどない	538	53.90%
2	たまにある	328	32.90%
3	よくある	113	11.30%
	無回答	19	1.90%

(2) あなたは、疎外されていると感じることがありますか？

1	ほとんどない	844	84.60%
2	たまにある	123	12.30%
3	よくある	15	1.50%
	無回答	16	1.60%

(3) あなたは、他の人から孤立していると感じることがありますか？

1	ほとんどない	783	78.50%
2	たまにある	169	16.90%
3	よくある	26	2.60%
	無回答	20	2.00%

Q18 困ったときは誰に相談しますか

1	家族・兄弟姉妹・親族	900	90.20%
2	友人	547	54.80%
3	隣近所	142	14.20%
4	町内会・自治会班長	31	3.10%
5	民生委員・児童委員	11	1.10%
6	地域包括支援センター	42	4.20%
7	ケアマネジャー	49	4.90%
8	地域の相談窓口(役所等)	44	4.40%
9	社会福祉協議会(地区社協含む)	7	0.70%
10	相談できる人がいない	22	2.20%
11	誰にも相談しない	33	3.30%
12	その他	23	2.30%
	無回答	8	0.80%

Q19 今後、町内会・自治会、柿生地区社会福祉協議会に望む取り組みについて教えてください

1	ひとり暮らしの高齢者の見守りや緊急連絡体制の強化	354	35.50%
2	防災・減災・備災に対する体制づくり(対災力の向上)	412	41.30%
3	緊急・災害時の要援護者の救助体制の充実	270	27.10%
4	住民による地域パトロールの強化	132	13.20%
5	買い物時の代行や配達サービスの充実	115	11.50%
6	通院や買い物などの送迎サービスの充実	151	15.10%
7	食事サービスや近隣で食事ができる会食会などの充実	71	7.10%
8	住居に関する簡単な手伝い「ちょいボラ」	193	19.30%
9	支え合い活動を地域に作り出す	129	12.90%
10	健康寿命を伸ばす取り組みの充実	205	20.50%
11	子育て世代の親子の交流・居場所づくり	90	9.00%
12	子どもの一時預かりなどの支援作り	84	8.40%
13	身近な相談の場づくり	124	12.40%
14	誰でも気軽におしゃべりが出来る交流・居場所づくり	184	18.40%
15	講演会、研修会、スマホ教室等の充実	108	10.80%
16	ボランティアの機会の提供	83	8.30%
17	その他	30	3.00%
	無回答	110	11.00%

あさお区民記者が走る! vol.47

2025年
May



「人生100年、知りましょう、 こんなことを」



「高齢者福祉のしおり」

麻生区は長寿日本一ということで、いろいろな支援が。そのなかで意外と知られていないのが「高齢者見守りネットワーク」。自分で相談できない・家族がいないなどの高齢者を、宅配弁当・新聞販売店など28の事業者の協力で異常を発見し、関係団体が連携・協力して支援するもので、昨年は13件の見守り事例があった。

そして川崎市でも高齢者に役立つ情報を発信している。特に「高齢者福祉のしおり」は内容も充実し参考になるのに、あまり知られていない。そこで麻生市民館の自主企画事業として「高齢者が楽しく暮らすために～プロがあなたの心配事に応えます」プロジェクトが、9月開講の準備を進めている。

元気なうちに、新しい情報に触れ、不安や恐れのない、自分らしい豊かな人生を満喫したいものです。

植木昌昭記者



あさお
区民記者とは?

地域活動が盛んな麻生区で活動する団体にスポットライトをあてるために、麻生市民交流館やまゆりを運営する認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターが中心となって、文章を書くことが好きな区民で活動しています。

全3回講座（麻生市民館で開催します）

高齢者も楽しく暮らすために!!

第1回

9/5 **金**

10:00～12:00
視聴覚室

第2回

9/17 **水**

10:00～12:00
視聴覚室

第3回

9/19 **金**

10:00～12:00
第1会議室



対 象：関心のある方
定 員：30名程度
費 用：無料

●講師 & 講座内容

第1回

講師：麻生区高齢・障害課 介護認定給付係長 津川徹尚
内容：楽しく暮らせる川崎市の対応のいろいろ

第2回

講師：麻生区高齢・障害課 高齢者支援係長 瀬下降行
内容：高齢者の住まいガイドを知っていますか？

第3回

内容：参加者全員によるグループでの話し合い
高齢者日本一の麻生区民らしい提案を！

◎申込み受付方法

令和7年8月8日（金）午前9時から
麻生市民館ホームページ・電話・市民館窓口にて 先着順
【麻生市民館】川崎市麻生区万福寺1-5-2 電話：044-951-1300



主 催 川崎市教育委員会

実施機関 麻生市民館

企画担当 「楽しい高齢者になろう会」羽田聡子・上村美恵子・斎藤和彦・吉澤純子・新田武明

I want to spend the rest of my life here

麻生市民館の市民自主学級 連続5回講座

生講集!!
受募

麻生発。 愉しもう 新しいご隠居スタイル

人生100年、まだまだ“これから”!
仲間と出会い、学び、愉しむ、新しいシニアライフ

9月

9日(水)

13日(土)

26日(金)

10月

10日(金)

24日(金)

14時~16時



●対象・定員

- » 人生100年時代に関心のあるシニアの方
- » 概ね65歳以上の方
- » 原則5回連続で参加が可能な方
- » 定員 30名(先着順)

シニアが
真に愉しめる
カルチャーを
楽しむ



主催 川崎市教育委員会

実施機関 麻生市民館

企画運営 希望のご隠居プロジェクト

●申し込み

2025年8月6日(水) 午前9時から麻生市民館HP・電話・窓口にて(先着順)

【麻生市民館】川崎市麻生区万福寺 1-5-2 ☎ 044-951-1300



愉しもう 新しいご隠居スタイル

場所：麻生市民館
時間：14～16時

「人生100年時代、愉しんだ者勝ち！」

長寿日本一の麻生区からはじまる、シニアの新しいライフスタイル
仲間、学び、笑顔 —— “これから”をもっと面白くする体験を。



2025年秋・全5回講座

第1回 2025年9月9日(火) @第1会議室

●無邪気にボードゲーム **体験** **挑戦**

頭と身体を使って、笑って楽しくボードゲームに挑戦

【講師】麻生市民館職員

第2回 2025年9月13日(土) @大会議室

●大人だって、ごっこ遊びであそぼう **体験**

昔の子ども時代を思い出し、リラックスして愉しく笑って遊ぼう

【講師】大人だって遊ぼう会

第3回 2025年9月26日(金) @視聴覚室

●フレイル対応 **講座** **体験**

加齢による心身の衰え対策を学ぶ

【講師】ティップネス新百合ヶ丘

第4回 2025年10月10日(金) @視聴覚室

●終活セミナー **講座**

人生の終末をどのように迎えるか、エンディングノートもそろそろ準備をはじめよう

【講師】特定非営利活動法人お葬式情報案内センター

第5回 2025年10月24日(金) @視聴覚室

●笑いのヨガ **体験学習**

笑いのエクササイズとヨガの呼吸を組み合わせた運動で心身ともにエネルギーになるよう

【講師】お多福笑いヨガ

この講座の目的

「人生100年時代」といわれる今、さまざまな視点から麻生区の未来を考えます。長寿日本一の麻生区だからこそ、他の地域にはない新しい挑戦ができるのではないでしょうか。たとえば、新しい仲間や居場所を求める高齢者のための受け皿づくりもその一つです。高齢者が本当に愉しめる内容の講座を企画・実施し、高齢者自身が心から愉しめるカルチャーを育てていくことを目指します

令和7年度地域包括ケアシステム講演会について

2025/ 6.23 麻生区役所地域包括ケアシステム推進課

01. 講演会タイトル（仮）

若者の生きにくさについて ～経験者の声から～

02. 目的

「生きにくい」を感じてる若者が「引きこもり」などになり、8050問題へ発展してしまうケースもある。そのような現状を、経験者の声を聞くことで、参加者が考え、気づきに繋がるきっかけとなることを目的とする。

03. 日時・会場

日時 令和7年11月9日（日）
14時～16時（予定）
※あさお福祉まつりと同日開催
会場 麻生市民館大ホール

04. 対象・参加予定人数

若者の生きにくさ、引きこもりなどに関心のある者、地域包括ケアシステムに興味のある者、保護者、支援者、その他、本講演会に興味・関心のある者

05. 内容（検討中）

若者だれしもが経験する「生きにくい」とそれをどのように受け入れ、前に進めるようになってきたかの生の声をお伝えします。また大学教授等によるトークセッションなど

06. 登壇者

- ◆ 俵 隆典氏
（NPO法人あさおSDC代表理事・NPO法人アイゼン理事）
多摩区・麻生区のSDC（ソーシャルデザインセンター）やこども食堂などの活動を、10代・20代の若者を巻き込みながら実施している。元中学校教諭
- ◆ 村井 祐一氏（田園調布学園大学教授・副学長）
日本福祉介護専門学会（JISSI）副代表理事
あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議委員
川崎市子ども子育て会議会長等多数
- ◆ 川崎市立学校を卒業した10代～20代の若者多数

地域ケア推進課企画調整係 池田・飯村担当
電話 044-965-5303
メール 73keasui@city.kawasaki.jp